言語研究（*Gengo Kenkyu*）**167**: 27–53（2025）　doi: 10.11435/gengo.167.0_27

トルコ語における名詞の重複と複数行為性

鈴　木　　唯
東京外国語大学　日本学術振興会特別研究員PD

【要旨】トルコ語には名詞の重複で事象の複数性を表す構文がある。この構文を本稿では複数行為性名詞重複構文（PNR 構文）と呼ぶ。先行研究で PNR 構文は単なる名詞の重複として捉えられてきた。しかし，本稿では複数行為性を表す構文として捉え直し，参与者指向 / 事象指向 PNR 構文という二種類の PNR 構文があると分析する。まず，前者は行為の参与者に行為を分配する機能を持ち，後者は時間と場所に行為を分配する機能を持つことを主張する。さらに，二種類の PNR 構文は共通して動詞の付加詞であるものの，参与者指向 PNR 構文は描写述語，事象指向 PNR 構文は副詞と分析する。最後に，これらの記述・分析に基づき，本稿はトルコ語の複数行為性の構文と PNR 構文を比べ，前者は限定的で単一機能しか持たない一方で，後者は包括的かつ多機能的な複数行為性構文であると特徴づける *。

キーワード：トルコ語，重複，複数行為性，描写二次述語，副詞

1. はじめに

複数行為性（pluractionality）とは事象の複数性を表す文法的カテゴリーである（Newman 1980, Mattiola 2019, Mattiola 2020）。複数行為性は近年類型論において注目されているが，その理由はそれを表す形式とその形式が表現する意味のバリエーションが豊富であるからである。具体的には，まず，通言語的によくみられる複数行為性の形式のバリエーションには重複，接辞，語彙的交替がある（Mattiola 2019）。例えば，トルコ語では形式のバリエーションとして相互を表す動詞接辞 *-Iş*[1] や動詞を派生する動詞接辞 *-IştIr*，さらに重複によって複数行為性を表すことができる。（1）は動詞接辞 *-Iş*（V-ış 構文），（2）は動詞接辞 *-IştIr*（V-ıştır 構文），（3）は動詞の重複（動詞重複構文）が複数行為性を表す例である。

（1）　*Kuş-lar*　　*uç-uş-tu.*
　　bird-PL　　fly-ış-PST
　　「鳥たちが飛び散った。」

* 本論文の執筆にあたって石川さくら，周杜海，谷川みずき，長屋尚典，林真衣，諸隈夕子，吉田樹生の各氏から有益なコメントを頂きました。深く感謝申し上げます。本研究は JSPS 科研費 JP21J21799，JP24KJ1004 の助成を受けたものです。

[1] トルコ語には母音調和と子音交替があり，交替しうる音は大文字で表記している。

（2）　*Serp-iştir-di.*
scatter-IŞTIR-PST
「（少しずつ何度も）ちりばめた。」

（3）　*Oku-du　da　oku-du.*
read-PST　also　read-PST
「（彼は）読みに読んだ。」

（1）では動詞 *uç* が飛ぶという行為を表す[2]。接辞 *-Iş* がついた動詞 *uç-uş* は単なる飛ぶという事象ではなく，複数の参与者が飛び散るという事象を表す。接辞 *-Iş* がつくことで，参与者が複数いることを含意するので，（1）に見られるように参与者を表す項である主語は必ず複数形である。（2）では接辞 *-IştIr* がついた動詞 *serp-iştir* が散りばめるという行為が何度も行われていることを表す。（3）では動詞の重複 *okudu da okudu* が読むという行為が複数回行われていることを表す。

一方で，複数行為性の意味のバリエーションとして 3 つの中心的機能がある（Mattiola 2019）。参与者的[3]，時間的，場所的分配である。この分配というのは，どのような形で複数の事象が起きているかということである。つまり，複数の事象が複数の参与者にわたって起きているのか，複数の時間にわたって起きているのか，複数の場所にわたって起きているのかということである。例えば，（1）の V-IŞ 構文では参与者である複数の鳥によって飛ぶという事象が複数回行われていることが表されており，この構文は参与者的分配の機能を持つといえる。（2）の V-IŞTIR 構文と（3）の動詞重複構文ではそれぞれ散りばめるという行為と読むという行為が複数の時間にわたって行われていることが表されており，これらの構文は時間的分配の機能を持つといえる。

類型論においては，こうした複数行為性がどのような形式で表現され，その形式がどのように事象を分配する機能を持つかが課題となっている。これまでの研究では（1）から（3）に挙げたような動詞の形態論的形式によって表される複数行為性の構文が問題となっていた。しかし，本論文は，トルコ語における動詞接辞によらない，名詞の重複が複数行為性を表す構文に注目する。例を（4）と（5）に示す。

（4）　*Kitap-lar-ı　kutu~kutu　ver-di-m.*
book-PL-ACC　box~box　give-PST-1SG
「（私は）本を箱ごとに与えた。」

---

[2] 査読者の指摘によれば，相互態の意味からは予測できないものの，*uçuş-* には集団で飛ぶという意味もあり，その場合は副詞 *aynı anda*「同時に」，*hep birlikte*「みな一緒に」，*beraber*「一緒に」などが共起する。この意味は「飛ぶという事象が複数回行われ」，集団を形成するとも考えられるので，本論の反例となるものではない。

[3] 参照する対象には人だけでなく物も含まれるため，参与者・物という用語が適切である。しかし，冗長になるため，本論文では「参与者」という用語を統一して使用する。

(5)　*Kitab-ı*　*kütüphane~kütüphane*　*ara-dı-m.*
　　book-ACC　library~library　search.for-PST-1SG
　　「(私は) その本を図書館という図書館で探した。」

(4) では *kutu*「箱」を繰り返すことで「箱ごとに」という意味を表している。この重複形式 *kutu~kutu*「箱ごとに」が動詞を修飾することで，節全体が与えるという事象が複数回起きていることを表す。(5) では *kütüphane*「図書館」を繰り返すことで「図書館という図書館で」という意味を表している。この重複形式 *kütüphane~kütüphane*「図書館という図書館で」が動詞を修飾することで，節全体が探すという事象が複数回起きていることを表す。名詞が場所格でないにも関わらず，場所を表している点が非常に興味深い。(4) と (5) のように名詞の重複が動詞の表す事象の複数性を表すとき，この重複を含む節全体を複数行為性名詞重複 (Pluractional Nominal Reduplication) 構文 (以下，PNR 構文) と呼ぶことにする。

興味深いことに，(4) と (5) には共通点と相違点がある。共通点として，両者とも名詞の重複が事象の複数性を表す。例えば，(4) では与えるという行為の複数性が表されており，(5) では探すという行為の複数性が表されている。このような共通点がある一方で，(4) と (5) の PNR 構文には，節内の名詞句の複数標識の有無に関する形式的相違点と，複数行為性の指向に関する意味的相違点が観察される。形式的には，(4) の PNR 構文では，節内の名詞句が複数形をとる必要がある一方で，(5) の PNR 構文では節内の名詞句の数標識の制限がなく，単数形の場合も複数形の場合もある。具体的には，(4) では名詞 *kitap*「本」が *kitap-lar* (book-PL) と複数形をとっている。(6) のように *kitap*「本」が単数形の場合，非文法的となる。

(6)　**Kitab-ı*　*kutu~kutu*　*ver-di-m.*
　　book-ACC　box~box　give-PST-1SG
　　「(私は) 本を箱ごとに与えた。」

(5) では名詞句 *kitab-ı* (book-ACC)「本を」は単数形をとっており，複数形 *kitap-lar-ı* (book-PL-ACC)「(複数の) 本を」であっても文法的である。トルコ語では，複数標示は義務的ではない。意味的に複数の指示対象でも複数が標示されない場合がある。このことを踏まえると，(4) の PNR 構文で節内の名詞句が複数形をとる必要があることは興味深い。このように事象の参与者を表す名詞句の複数標識の有無に制限がある場合と，制限がない場合がある。

意味的には，(4) と (5) の重複構文はそれぞれ異なる要素を中心に複数の事象が分配される。具体的には，参与者にも事象にも複数性の指向がある場合と参与者にはなく事象自体のみに複数性の指向がある場合がある。(4) では名詞の重複は複数の事象が単位ごとに起きていることを表しており，参与者である *kitap*「本」が複数であることを含意している。対照的に，(5) では複数の事象が複数の場所にわたって起きていることを表している。このような形式的・意味的違いが観察される

ことから，以下では，PNR 構文のうち，（4）のような参与者の複数性にも関わる重複構文を参与者指向 PNR 構文，（5）のような事象自体の複数性のみに関わる重複構文を事象指向 PNR 構文と呼ぶことにする。両者は名詞の重複形式を含む点で共通しているが，重複される名詞の種類が異なり，構文全体としても異なる意味を表し，興味深い。PNR 構文の形式と意味を記述することで，形式と意味のバリエーションに注目する複数行為性の類型論に一例を提示することができる。

このような興味深い類似点・相違点があるにもかかわらず，先行研究において PNR 構文は単なる名詞の重複として記述され，注目されてこなかった。参照文法では，名詞の重複が副詞的要素として現れると述べられているだけである（Kornfilt 1997, Lewis 2000, Göksel & Kerslake 2005）。そこで，この二種類の構文について詳細な記述・分析が必要である。具体的には，複数行為性の観点から二種類の PNR 構文について形式的・意味的にどのような共通点と相違点があるのかを記述・分析する必要がある。

本論文は参与者指向 PNR 構文と事象指向 PNR 構文についてコーパス調査と聞き取り調査から得たデータ[4]に基づき記述・分析を行い，複数行為性の観点から形式と意味の類似点と相違点を明らかにする。まず，この二種類の PNR 構文の形式的・意味的な類似点を明らかにする（第 2 節）。形式的には，PNR 構文は共通して，動詞の付加詞を成す名詞重複の構文であることを示す。意味的には，PNR 構文は共通して，複数行為性の機能を持つと分析する。しかし，両者とも複数行為性を表すとはいえ，詳細に意味を分析すると，この二種類の PNR 構文は複数の事象が異なる形で複数回行われることを表していることを示す（第 3 節）。具体的には，参与者指向 PNR 構文は事象に関わる参与者ごとに行為が行われ（参与者的分配），事象指向 PNR 構文は時間と場所ごとに行為が行われる（時間的分配・場所的分配）という両者の違いを詳細に論じる。さらに，二種類の PNR 構文は共通して動詞の付加詞であるものの，意味の違いを反映して異なる統語的構造を持つことを主張する（第 4 節）。具体的には，参与者指向 PNR 構文の重複は描写述語，事象指向 PNR 構文の重複は副詞であると分析する。このように，一見同じように見える二種類の PNR 構文は，複数行為性の機能的観点で異なり，それを反映するように異なる統語的構造を持つと分析できる。最後に，本論文ではここまでの PNR 構文の分析と記述を踏まえ，トルコ語の複数行為性の構文群の中に PNR 構文を位置づける（第 5 節）。トルコ語において動詞の形態論による複数行為性標識は限定的で単一機能的である一方で，PNR 構文は包括的で多機能的であることを論じる。第 6 節では本論文をまとめる。

---

[4] データについて，特に出典がない例文は，筆者が作成し，5 人のトルコ語母語話者の方に文法性の判断をしていただいたものである。適宜コーパス Sketch Engine（Kilgarriff et al. 2014）の Turkish Web 2012 tr（TenTen12）からもデータを収集し，例文の横に出典を付した。

2. PNR 構文の形式的・意味的共通点

本節では二種類の PNR 構文の形式と意味の共通点を記述する。まずその前に，第 2.1 節では複数行為性の類型論的研究を導入する。類型論では複数行為性は動詞の形態論的形式に限る定義が提唱されていることを述べる。第 2.2 節では二種類の PNR 構文は形式的共通点として名詞を繰り返すことで動詞の付加詞を形成する構文であることを示す。第 2.3 節では，PNR 構文は動詞の形態論による形式ではないものの，動詞の形態論的形式と同様に複数行為性を表すことを示す。PNR 構文を複数行為性の構文として分析することで，PNR 構文をトルコ語の他の複数行為性の構文と比較し，新たな発見をすることができる。

2.1. 類型論における複数行為性

複数行為性（pluractionality）とは事象の複数性を表す文法的カテゴリーの比較概念（comparative concept）（Haspelmath 2010）である（Mattiola 2019, Mattiola 2020）。複数行為性は Newman（1980）が造った用語である。Newman（1980: 53）は，“the essential semantic characteristic of such (pluractional) verbs is almost always plurality or multiplicity of the verb's action.”と定義している（丸括弧内は筆者が補ったものである）。

Newman（1980）のこの定義に対して，Mattiola（2019）は標示の位置に言及していないことを指摘している。標示の位置に言及しないと，副詞（*twice*, *often*, *always*, *again*）などの文法範疇ではない語彙的な言語形式を複数行為性に含んでしまうことになる。そこで，Mattiola（2019）は標示の位置についても定義に含めるべきであると主張し，複数行為性を“a morphological modification of the verb or a pair of semantically related verbs that primarily convey a plurality of situations involving a repetition in time, space, and/or participants (Mattiola 2019: 164)”と定義している。

第 1 節で述べたように，通言語的によくある複数行為性の形式のバリエーションとして重複，接辞，語彙的交替がある（Mattiola 2019）。様々な言語における複数行為性の構文の例を次に示す。(7)，(8)，(9) はそれぞれ Squamish，Barasano，Koasati という言語の例である。

(7) *Chen* *kwel~kwelesh-t* *ta* *sxwi7shn.* (Bar-el 2008: 34)
1SBJ.SG RED~shoot-TR DET deer
「私は鹿を何度も撃った。」

(8) *gahe-rũbũ* *bota-ri* *kea-kudi-ka-bã* *idã.* (Jones & Jones 1991: 101)
other-day post-PL chop-ITER-FAR.PST-3PL 3PL
「次の日，彼らは色んなところに行って柱を切り倒した。」

(9) a. *okipófkak* *o:w-á:y.* (Kimball 1991: 446)
whale.SBJ in.water-go.about.SG/DU
「クジラが泳いでいる。」

b.　*okipófkak　o:-yomáhl.*　(Kimball 1991: 446)
whale.SBJ　in.water-go.about.PL
「複数のクジラが泳いでいる。」

（7）では動詞の部分重複 *kwel~kwelesh-t* が打つという行為が複数回行われていることを表している。（8）では動詞接辞 *-kudi* がついた *kea-kudi-ka-ba* という動詞が切り倒すという行為が複数回行われていることを表している。（9）では動詞 *o:w-á:y* が *o:-yomáhl* に語彙的に交替することで複数行為性が表されている。

さらに，これらの形式がどのような複数行為性の意味のバリエーションを見せるのかが問題となる。Mattiola（2019）によれば，複数行為性の形式には時間的，場所的，参与者的分配という 3 つの中心的機能がある。例えば，（7）は動詞の重複が時間的分配の機能を持ち，撃つという行為が複数の時間にわたって行われていることが表されている。（8）は場所的分配の機能をもち，切り倒すという行為が複数の場所にわたって行われていることが表されている。（9）では参与者的分配の機能を持ち，複数の参与者であるクジラによって泳ぐという事象が複数回行われていることが表されている。類型論においてこのように複数行為性がどのような形式で表現され，その形式がどのように事象を分配する機能を持つかが課題となっている。

2.2. 形式的共通点：PNR 構文の重複形式は動詞の付加詞である

本節では，参与者指向 PNR 構文と事象指向 PNR 構文の形式的共通点として，両構文の重複形式は動詞句の付加詞であることを示す。具体的には，what 疑問文テストから PNR 構文の重複形式が独立した名詞句ではないこと，how 疑問文テストから重複形式は動詞と共に構成素を成していること，置換テストと省略テストから PNR 構文は動詞句内の付加詞であることを示す。

まず，what 疑問文テストで，PNR 構文の重複形式は名詞句を成していないことを確認する。What 疑問文テストでは what の疑問文に対して返答できた場合，その構成素は名詞句を成していると想定している。（10）を見よ。

（10）　A:　*Ne　taşı-dı-n?*
what　carry-PST-2SG
「（君は）何を運んだの？」
B:　*#Kutu~kutu　taşı-dı-m.*
box~box　carry-PST-1SG
意図：「（私は）多くの箱を運んだ。」

（10）では「何を」という疑問文に対して，重複形式 *kutu~kutu* が名詞句として「多くの箱を」という意味を表せない。ただし，文脈とは独立に「（私は）箱ごとに運んだ。」という意味では文法的である。このことから，PNR 構文の重複形式はそれ自体で名詞句を形成していないことがわかる。

次に，how 疑問文テストから PNR 構文の重複形式は動詞と共に構成素を成していることがわかる。How 疑問文テストでは how の疑問文に対して返答できた場合，重複形式は動詞と共に構成素を成していると想定している。（11）を見よ。

（11）　A: *Kitap-lar-ı　nasıl　taşı-dı-n?*
book-PL-ACC　how　carry-PST-2SG
「（君は）本をどう運んだの？」
B: *Kutu~kutu　taşı-dı-m.*
box~box　carry-PST-1SG
「（私は）箱ごとに運んだ。」

（11）では PNR 構文の重複形式 *kutu~kutu*「箱ごとに」が動詞と共に現れることができている。名詞句ではなく動詞と共に構成素を成していることがわかる。このように，疑問文テストの結果，PNR 構文は動詞と構成素を成し，動詞句を形成していると分析する。

さらに，置換テストと省略テストから PNR 構文は動詞句内の付加詞であることがわかる。置換テストでは，重複形式が副詞と置換できたら，副詞と同様の付加詞であるということがわかる。省略テストでも，重複形式が省略できたら，必須の要素ではなく，付加詞であることがわかる。（12）は置換テストと省略テストの例である。

（12）*Kitap-lar-ı　kutu~kutu/defalarca/hızlıca/ø　ver-di-m.*
book-PL-ACC　box~box/many.times/fast/ø　give-PST-1SG
「私は本を箱ごとに / 何回も / 素早く /ø 与えた。」

（12）で動詞句の付加詞である副詞 *defalarca*「何度も」や *hızlıca*「早く」と置き換えることができていることから重複形式は付加詞であることがわかる。省略できることからも，随意的な要素，つまり付加詞であることがわかる。

PNR 構文の重複形式が動詞句の付加詞ではなく，名詞句の付加詞である可能性もあるが，（13）の例からその可能性は否定される。

（13）　A: *Ne　taşı-dı-n?*
what　carry-PST-2SG
「（君は）何を運んだの？」
B: *[büyük　kitap-lar-ı]*
big　book-PL-ACC
「大きな本を」
B’: **[Kitap-lar-ı　kutu~kutu]*
book-PL-ACC　box~box
意図：「箱ごとの本を」

（13）の B の返答では形容詞 *büyük*「大きい」が後続する名詞とともに現れており，形容詞 *büyük*「大きい」は名詞句の構成素を成している。一方で（13）の B' の PNR 構文の重複形式 *kutu~kutu* は先行する名詞とともに現れることができない。つまり，重複形式は名詞句の構成素を成しておらず，名詞句の付加詞であるわけではない。

最後に，注意したいのは，類似しているようで異なる構文，連体名詞重複構文があることである。この構文では名詞の重複形式は名詞句の構成素を成し，他の数量詞と同様に名詞修飾の機能を果たす（Suzuki 2023）。（14）に例を示す。

（14）*Kutu~kutu　kitap　taşı-dı-m.*　(Suzuki 2023: 255)
box~box　book　carry-PST-1SG
「大量の箱分の本を運んだ。」

（14）では名詞の重複 *kutu~kutu*「大量の箱分の」が名詞の前に現れている。この名詞の重複が他の数量詞と同様に名詞修飾の機能を果たすことは（15）のように他の数量詞と置き換えることができることからわかる。

（15）*çok/üç/üç kutu/kutu~kutu　kitap*
many/three/three box/box~box　book
「たくさんの /3 冊の /3 箱の / 大量の箱の本を」

（15）では，名詞の重複 *kutu~kutu*「大量の箱分の」は他の数量詞と置き換えられることから名詞句の構成素を成し，名詞修飾の機能を果たしている。連体名詞重複構文では一部の類別詞として機能する名詞のみが重複できる一方で（Suzuki 2023: 255），PNR 構文は第 3.2 節で述べるように場所名詞や時間名詞も重複できる。このため両者は異なる構文と分析できる [5]。

このように，PNR 構文は名詞を繰り返すことで動詞句の付加詞を形成していると分析することができる。なお，同様の分析は先行研究でもされている。例えば，Göksel & Kerslake（2005: 100）で名詞の重複が副詞機能（動詞修飾）を持つと記述されている。しかし，その分析を裏付ける証拠は示されていない。本節では PNR 構文が動詞句の付加詞である分析の根拠となるデータを提示することができた点で先行研究の内容を進めたことになる。

なお，同じ重複だが，次に示すエコーワードと分配数詞の重複は PNR 構文ではない [6]。まず，トルコ語には，重複することで指示対象や行為の曖昧性を表すエコー

[5] この重複も量が多いことを表すことから参与者の複数性を表す点で PNR 構文と同様に複数行為性を表していると分析できるかもしれない。今後の検討が必要である。

[6] トルコ語には多様な種類の重複が存在する。このようなトルコ語の重複表現全体において，PNR 構文をどのように位置づけることができるかは重要な課題であるが，本論文では複数行為性の機能を持つ重複に集中し，重複の全体像については別稿に譲りたい。なお，トルコ語における重複は特定の言語使用域（子供のみが使うなど）に限られる表現ではなく，文法機能を持つ重要な語形成手段の一つである。

ワードともいわれる重複がある（Armoskaite & Kutlu 2015）。要素の最初が子音の場合は子音を m に変えその要素を重複し，母音の場合はその要素を加え重複する。例えば（16）である。

（16）*Kitap~m-itap　oku-mak　iyi　gel-ir.*　(Armoskaite & Kutlu 2015: 274)
book~m-book　read-VN　good　come-AOR
「本とかを読むのはいいことだ。」

エコーワードは名詞だけでなく，動詞や形容詞など様々な統語的範疇の要素を重複することができることと，複数行為性を表さないことから，本論文の対象とはしない。

次に，分配数詞の重複が PNR 構文と類似した機能を持つ。分配数詞の重複は PNR 構文と同様に行為の複数性を表すことができる。例えば（17）である。

（17）*Öğrenci-ler　iki-şer~iki-şer　gel-di.*
student-PL　two-DST~two-DST　come-PST
「学生が二人ずつ来た。」

しかし，本稿で示すような名詞の重複ではなく，分配数詞の重複であるため，本論文では PNR 構文として分析しない。

最後に，PNR 構文は，トルコ語の重複表現の一種であるため，他の重複表現と同じ音韻的特徴を持つことに言及しておきたい。トルコ語の重複は，（18）のように重複の前部の最後の音節にアクセントがおかれる。PNR 構文も同様に（19）に示すように重複の前部の最後の音節にアクセントがおかれる。

（18）*çocúk~çocuk*
child~child
「子供のように」

（19）*kutú~kutu*
box~box
「箱ごとに」

2.3. 意味的共通点：PNR 構文は複数行為性を表す

第 2.2 節でも示したように，本論文で扱う PNR 構文は動詞の形態論的形式ではないため，Mattiola（2019）の定義する複数行為性に PNR 構文は含まれない。しかし，本論文では複数行為性の定義を動詞の形態論的形式に限るのではなく，動詞の形態論によらない文法的形式も含めるように広げる（cf. 鈴木 2025）。まず，動詞の形態論的形式以外であっても同じように複数行為性の機能を表すことを確認する。（20）と（21）に PNR 構文の例を示す。

（20）…*kurs-lar-da*　*birtakım*　*dergi*　*ve*　*kitap-lar,*
　class-PL-LOC　some　magazine　and　book-PL
　deste~deste　*dağıt-ıl-makta-dır.*　(insanokur.org)
　package~package　distribute-PASS-IPFV-COP
　「講座で何冊かの雑誌と本は束で配布されている。」
（21）…*oda~oda*　*gez-ip*　*kira-yı*　*topla-r-lar.*　(altzine.net)
　room~room　tour-CVB　rent-ACC　collect-AOR-PL
　「（彼らは）部屋という部屋を周って家賃を集める。」

（20）の PNR 構文は配布されるという事象の複数性を表す。（21）の PNR 構文は周るという行為の複数性を表す。動詞につく標識ではないものの，（7），（8），（9）と同じように行為の複数性を表すことができている。

このような動詞の形態論によらない形式である PNR 構文は動詞の形態論的形式に限る Mattiola（2019）の定義する複数行為性には当てはまらない。しかし，このような PNR 構文を複数行為性の構文と分析することに利点がある。第一に，PNR 構文は様々な名詞の重複が可能であり，生産性がある点で，文法的な形式である。その点で，副詞（*twice*, *often*, *always*, *again*）などの語彙的な形式とは異なる。例えば，ここまでに挙げた（4），（5），（20），（21）の例では異なる名詞が繰り返されており，生産性があると言える。文法形式ならば，それらが具体的にどのような形式でどのような機能（i.e., どのような事象の分配を表すのか）であるかが問題となる（第 3 節，第 4 節を参照）。

第二に，動詞の形態論的形式以外であっても同じような機能を表すならば，このような動詞接辞以外の形式にも定義を広げることで，より包括的に複数行為性の文法標識の意味と形式のバリエーションを観察することができる。実際，第 5 節では，トルコ語の（1）から（3）のような動詞の形態論的形式による複数行為性の構文と PNR 構文を比較する。この二点から，本論文では複数行為性の定義を動詞の形態論的形式に限るのではなく，動詞の接辞によらない文法的形式も含めるように広げる。

3. 参与者指向 PNR 構文と事象指向 PNR 構文の意味的相違点：複数行為性の分配

第 2 節では，参与者指向 PNR 構文と事象指向 PNR 構文の形式的・意味的共通点を記述した。このような共通点がある一方で，二種類の PNR 構文について複数行為性の意味的相違点がある。第 3.1 節では，二種類の PNR 構文の構文全体の意味的相違点を記述する。さらに，第 3.2 節では，参与者指向 PNR 構文では単位名詞，事象指向 PNR 構文では場所名詞・時間名詞を重複部分に使うことができることを示す。最後に，第 3.3 節で本節の記述・分析をまとめる。

3.1. PNR 構文の構文全体の意味

参与者指向 PNR 構文と事象指向 PNR 構文は複数行為性の観点から異なる意味を持つ。具体的には，参与者指向 PNR 構文は参与者的分配，事象指向 PNR 構文は時間的または場所的分配を表す。

まず，参与者指向 PNR 構文では，重複する名詞の指示物を単位とし，事象に関わる参与者がその単位ごとにグループ化され，複数の事象がそのグループ化された参与者ごとに起きることを表す。(22)，(23)，(24) をそれぞれ見よ。

(22) *Yemek-ler　tabak~tabak　gel-iyor.*　(kastamonupostasi.com)
food-PL　plate~plate　come-PROG
「食べ物が皿ごとに来る。」

(23) *Allah　Rasul-ü　söz-ler-i　tane~tane　söyle-r-di.*　(gucduvani.com)
Allah　Rasul-3SG.POSS　word-PL-ACC　piece~piece　say-AOR-PST
「アッラーの使徒は言葉を一つずつ語っていた。」

(24) *Hediye-ler-i　öğrenci-ler-e　grup~grup　dağıt-tı.*
present-PL-ACC　student-PL-DAT　group~group　distibute-PST
「プレゼントを学生たちにグループごとに配った。」

(22) では名詞 *tabak*「皿」が重複されている。食べ物が来るという事象が皿ごとに複数あることを表している。(23) では名詞 *tane*「〜個」が重複されている。言うという事象が言葉ごとに複数あることを表している。(24) では名詞 *grup*「グループ」が重複されている。配るという複数の事象がグループ化された学生ごとにわたって起きていることを表している。

参与者指向 PNR 構文の重要な特徴として，重複形式が事象の複数性だけでなく，参与者の状態も表す。例えば，(22) では食事は皿ごとの状態であることを表している。(23) では言葉が一つ一つの状態であることを表している。(24) では学生はグループごとの状態であることを表している（c.f. 第 4.3 節）。

参与者指向 PNR 構文は主語，目的語，間接目的語によって表される参与者の状態を表すことができる。(22) では主語，(23) では目的語，(24) では間接目的語によって表される参与者の状態を表している。このように，参与者指向 PNR 構文は項が表す参与者が単位ごとにグループ化されるという状態で，単位ごとの参与者にわたって事象が起きることを表す。

一方で，事象指向 PNR 構文では，重複する名詞の表す複数の時間または複数の場所において複数の事象が起きていることを表す。参与者指向 PNR 構文とは異なり，参与者の複数性や状態については含意せず，場所や時間などの事象自体に関する付随的要素の複数性を表すだけである。(25)，(26)，(27) は複数の場所にわたる複数行為性を表す事象指向 PNR 構文の例である。

（25）…*masa~masa*　*dolaş-ıp*　*gel-en*　*davetli-ler-e*
table~table　go.around-CVB　come-REL　invitee-PL-DAT
hoş　*gel-di-niz*　*de-di.*　(siverekhedefgazetesi.com)
good　come-PST-2PL　say-PST
「机ごとに回って訪れた招待者たちにようこそと言った。」

（26）*Silivri'-yi*　*mahalle~mahalle,*　*sokak~sokak,*　*kapı~kapı*
Silivri-ACC　district~district　street~street　door~door
gez-en　*CHP'-li*　*kadın-lar...*　(hurhaber.com.tr)
go.around-REL　CHP-from　woman-PL
「シリウリを地区ごと，道ごと，一軒一軒まわった CHP の女性は ...」

（27）*Küçük-ken*　*mahalle-deki*　*arkadaş-lar-la*
small-when　district-be.at　friend-PL-COM
cami~cami　*gez-er...*　(sanliurfa.com)
mosque~mosque　tour-AOR
「小さいころ，近所の友達たちとモスクというモスクを周って ...」

（25）では名詞 *masa*「机」が重複され，机ごとに周るという複数の事象が分配されていることを表している。（26）では名詞 *mahalle*「地区」, *sokak*「道」, *kapı*「ドア」が重複されている。周るという複数の事象が地区，道，家ごとに分配されていることを表している。最後に，（27）では名詞 *cami*「モスク」が重複され，周るという複数の事象がモスクごとに分配されていることを表している。複数の場所にわたる複数行為性を表す事象指向 PNR 構文では，動詞は *ara*「探す」, *dolaş*「歩きまわる」, *gez*「見てまわる」などが共起しやすい。

次の（28），（29），（30）は複数の時間にわたる複数行為性を表す事象指向 PNR 構文である。

（28）*Acem*　*sefer-i-nde*　*gör-düğ-üm-ü*　*duy-duğ-um-u*
Iran　voyage-3SG.POSS-LOC　see-REL-1SG.POSS-ACC　hear-REL-1SG.POSS-ACC
bil-diğ-im-i,　*ne*　*var-sa*
know-REL-1SG.POSS-ACC　what　exist-COND
gün~gün　*yaz-ıyor-um.*　（オスマン帝国外伝第 3 シーズン 21 話 00:11:04）
day~day　write-PROG-1SG
「イラン遠征で私が見たこと聞いたこと知ったことを何であれ一日ごとに書いている。」

（29）*9*　*ay-dır*　*ay~ay*　*fotoğraf*　*çek-ip*　*bak-ıyor-um.* (sacekimiforum.com)
9　month-for　month~month　photo　take-CVB　look.at-PROG-1SG
「9 か月間，月ごとに写真を撮って見ている。」

（30）*Tüm*　*gelişme-ler-i*　*gün~gün,*　*saat~saat,*　*an~an*
whole　development-PL-ACC　day~day　hour~hour　moment~moment

takip　*ed-iyor-uz.*
follow　do-PROG-1PL　(mersininsesi.com)
「すべての進捗を日ごと，時間ごと，一瞬ごとに追っている。」

（28）では名詞 *gün*「日」が重複されている。書くという複数の事象が日ごとに分配されていることを表している。（29）では名詞 *ay*「月」が重複されている。写真をとるという複数の事象が月ごとに分配されていることを表している。（30）では名詞 *gün*「日」*saat*「時間」*an*「瞬間」が重複され，追っているのが日ごと，一時間ごと，一瞬一瞬であることが表されている。このように，事象指向 PNR 構文では，事象が複数の時間または場所にわたって起きていることを表す。このように，PNR 構文の複数行為性の機能は一様ではなく，参与者的，場所的，時間的分配という機能がある。

3.2. PNR 構文の重複部分の名詞の種類

名詞の重複はどのような名詞でも PNR 構文に使えるわけではない。参与者指向 PNR 構文の重複形式には単位名詞，事象指向 PNR 構文には場所名詞，時間名詞を使うことができる。それぞれの種類の名詞の例を表 1 に示す。

表 1　連用重複数量表現の重複名詞の例

	重複部分	例
参与者指向	単位名詞	*adet* ‘piece’, *araba* ‘car’, *deste* ‘bunch’, *grup* ‘group’, *kutu* ‘box’, *parça* ‘piece’, *somun* ‘loaf’, *tabak* ‘plate’, *tane* ‘piece’, *sürü* ‘herd’, *yığın* ‘stuck’, etc.
事象指向	場所名詞	*cami* ‘mosque’, *ev* ‘house’, *daire* ‘room’, *kapı* ‘door’, *kütüphane* ‘library’, etc.
	時間名詞	*ay* ‘month’, *gün* ‘day’, *hafta* ‘week’, *Pazar* ‘Sunday’, etc.

参与者指向構文では単位名詞を使うことができ，単位名詞が表す単位でグループ化された参与者ごとに複数の事象を分配する。単位名詞とは，ここでは，類別詞あるいは計量詞として機能できる名詞の総称である。類型論において，多くの言語で類別詞と計量詞は異なる統語的振る舞いをするため，別のものとして扱われる（Aikhenvald 2006: 466）。しかし，トルコ語では類別詞と計量詞は統語的に同じふるまいをする。具体的には，類別詞と計量詞は数詞と共起し，後続する名詞の数量を表すことができる。まず，トルコ語の類別詞として機能する名詞が数詞と共起し，後続する名詞の数量を表すことを確認する。トルコ語の類別詞には不連続的な無生物に使われる *tane* と *adet* やパンを数える際に専用に使われる *somun*「塊」などがある。（31）は *tane*，（32）は *somun* の例である。

（31）*üç*　*tane*　*elma*
three　piece　apple
「3 個のリンゴ」

（32）*üç*　*somun*　*ekmek*
three　loaf　bread
「3 塊のパン」

類別詞がそれぞれ数詞の直後に現れ，計量の単位を表している。同様に，計量詞として機能する名詞は数詞と共起し，後続する名詞の数量を表すことができる。計量詞には，度量衡語や容器語，形状語，グループ語，部分語などがある。それぞれの例を（33）–（36）に示す。

（33）*üç*　*kutu*　*kitap*
three　box　book
「3 箱の本」
（34）*üç*　*yığın*　*oyun*
three　stuck　play
「3 山のおもちゃ」
（35）*üç*　*grup*　*öğrenci*
three　group　student
「3 グループの学生」
（36）*üç*　*parça*　*ekmek*
three　piece　bread
「3 欠片のパン」

計量詞がそれぞれ数詞の直後に現れ，計量の単位を表している。このように，トルコ語では類別詞と計量詞は統語的に同じふるまいをする。このため，本稿では，類別詞と計量詞として機能する名詞をまとめて単位名詞と呼んでいる。参与者指向 PNR 構文の重複する名詞にはこのような単位名詞を使うことができる。

事象指向構文では，場所名詞と時間名詞を使うことができる。場所名詞について，ここでいう「場所」は比喩的なものも含む。例えば，*kapı*「ドア」は場所ではないものの，（37）のようにドアをメトニミーによって家を指し，名詞 *kapı*「ドア」を PNR 構文に使うことができる。

（37）*Şu*　*an-da*　*teşkilat*　*mensup-lar-ımız*　*Ankara'-yı*
that moment-LOC　organization　member-PL-1PL.POSS　Ankara-ACC
kapı~kapı　*dolaş-ma-ya*　*başla-dı.*　(lgazetesi.com.tr)
door~door　tour-VN-DAT　start-PST
「現在，組織のメンバーたちがアンカラを一軒一軒まわり始めた。」

（37）では *kapı~kapı* がメトニミーによってそれぞれの家を指し，「一軒一軒」という意味を表している。

時間名詞の中でも，重複によって複数行為性を表さない例外がある。*sabah*「朝」

と *gece*「夜」の重複は複数行為性を表さない。それぞれ，「こんな朝早くに」，「こんな夜遅くに」という意味を表す。例えば，(38) では *sabah*「朝」の重複の例である。

(38) *Niye sabah~sabah birbir-iniz-e*
why morning~morning each.other-2PL.POSS-DAT
bağır-ıyor-sunuz? (marksist.net)
scream-PROG-2PL
「なんでこんな朝早くにお互いに叫びあっているの。」

(38) からわかるように，*sabah*「朝」の重複は「こんな朝早くに」という程度が甚だしいことを表し，複数行為性を表しているわけではない。

単位名詞，時間名詞，場所名詞以外の名詞を繰り返した場合は，複数行為性を表さないので PNR 構文として分析しない。例えば，(39) のように人の性質や身分を表す名詞の重複は行為の様態を表し，複数行為性を表さない。

(39) *çocuk~çocuk konuş-ma* (bugun.com.tr)
child~child talk-NEG
「子供のように話すな」

(39) では重複形式 *çocuk~çocuk* は話す様子が子供のようであることを表しており，行為の複数性は表していない。

単位名詞，時間名詞，場所名詞，人の性質や身分を表す名詞のどれにも当てはまらない名詞は (40) からわかるようにそもそも重複することはできない[7]。(40) では (39) と同様の文脈であるものの，非文法的である。

(40) **bilgisayar~bilgisayar konuş-ma*
computer~computer talk-NEG
意図：「パソコンのように話すな」

(40) では *bilgisayar* は単位名詞，時間名詞，場所名詞，人の性質や身分を表す名詞のいずれでもなく，重複形式 *bilgisayar~bilgisayar* は非文法的である。

3.3. まとめ

本節の記述・分析は表 2 のようにまとめることができる。

[7] ただし，査読者の方によれば，文脈に応じて人の性質を表す名詞でない名詞も重複することができる。例えば，*robot~robot konuş-ma!* (robot~robot talk-NEG)「ロボットのように話すな！」というように，*robot*「ロボット」を重複することができる。

表2　第3節のまとめ

	重複部分の名詞	分配	例文
参与者指向 PNR 構文	単位名詞	参与者	(22)(23)(24)
事象指向 PNR 構文	場所名詞	場所	(25)(26)(27)
	時間名詞	時間	(28)(29)(30)

参与者指向 PNR 構文はグループ化された複数の参与者ごとに事象が分配される。重複部分には単位名詞を使うことができ，その単位名詞はそのグループの単位を表す。一方で，事象指向 PNR 構文は複数の場所または時間にわたって事象が分配される。重複部分には場所名詞または時間名詞を使うことができ，それぞれ事象が起こる場所や時間を表す。

第2節では二種類の PNR 構文は共通して複数行為性を表し，重複形式が動詞の付加詞であることを示した。しかし，本節で示したように，二種類の PNR 構文は複数性に異なる事象の分配を表し，異なる種類の名詞が重複される。次節では，この違いに対応するように，二種類の PNR 構文は異なる構造を持つことを示す。

4. 参与者指向 PNR 構文と事象指向 PNR 構文の構造的相違点：描写述語と副詞

これまでの議論では参与者指向 PNR 構文と事象指向 PNR 構文に共通点と相違点があることを指摘した。第2.2節では参与者指向 PNR 構文と事象指向 PNR 構文は共通して動詞の付加詞であることを示した。しかし，第1節で示したように，二種類の PNR 構文には節内の名詞句との相互作用に関する形式的相違点が観察された。具体的には，参与者指向 PNR 構文では，節内の名詞句が複数形をとる必要がある一方で，事象指向 PNR 構文では節内の名詞句の複数標識の有無に制限がなく，名詞句が単数形でも複数形でも可能であった。さらに，第3節では，二種類の PNR 構文は複数性に異なる事象の分配を表し，異なる種類の名詞が重複されることを示した。

このような違いから，二種類の PNR 構文は統語的に異なる構造を持っていることが予測される。二種類の PNR 構文の重複形式は共通して動詞句内の付加詞を形成していることを踏まえると（第2.2節），付加詞の中でも異なる種類の付加詞である可能性がある。そこで本稿では，類型論で指摘されている動詞の付加詞における描写述語と副詞の区別（Schultze-Berndt & Himmelmann 2004, van der Auwera & Malchukov 2005）に注目する。動詞の付加詞には描写述語的意味と副詞的意味があり，その意味を形式的に区別する言語がある。トルコ語の二種類の PNR 構文の重複形式も共通して動詞の付加詞であるものの，付加詞の中でも異なる構造を持っている可能性がある。

そこで，本節では，参与者指向 PNR 構文と事象指向 PNR 構文を描写述語と副詞の区別の観点から分析し，前節で示した参与者指向 PNR 構文と事象指向 PNR 構文はその意味的違いを反映するように両者は異なる統語的構造を持つことを示す。まず，第4.1節で類型論における描写述語と副詞の区別を概観した後，第4.2

節では背景としてトルコ語における描写述語と副詞の区別を導入する。これらの議論に基づき，第 4.3 節では参与者指向 PNR 構文は描写述語，事象指向 PNR 構文は副詞として分析できることを主張する。第 4.4 節では，ここまでの PNR 構文の記述・分析をまとめ，節内の名詞句における複数標識の有無に関する制限の問題を解決する。

4.1. 類型論における描写二次述語と副詞

本節では，描写二次述語と副詞の区別を導入する。そもそも二次述語とは，主語もしくは目的語との間に叙述関係があり，節の主語または目的語についての情報を加える述語である。二次述語は節の主要述語ではない。一次述語と二次述語は，複雑述語を形成しているわけではないが単一の節を成す（Schultze-Berndt & Himmelmann 2004: 59）。

二次述語のうち，描写二次述語（以下，描写述語）は動詞句の付加詞であり，事象の参与者の状態を表す。重要なことに，描写述語の時間の参照点は一次述語の表す事象と同じである。例えば，英語の描写述語の例を（41）に示す。

（41）　*George left the party angry.*　(Schultze-Berndt & Himmelmann 2004: 60)

（41）では *left* と *angry* が *George* の述語になっている。描写述語 *angry* は *George* がパーティーを去った時に怒っていたことを表しており，*George* が怒っているという事実に疑いの余地はない。

動詞の付加詞である点で描写述語と類似しているものに副詞がある。しかし，副詞は描写述語とは意味的に大きく異なる。参与者の特定の性質を表す描写述語とは異なり，副詞は一次述語を修飾する（Schultze-Berndt & Himmelmann 2004: 61）。例えば，英語の副詞の例を（42）に示す。

（42）　*George left the party angrily.*　(Schultze-Berndt & Himmelmann 2004: 61)

（41）で描写述語 *angry* は *George* の状態を表し，パーティーの去り方については何も言及していない一方で，（42）で副詞 *angrily* は *George* の去り方に焦点を当てている。*George* は怒ったかのような振る舞いをしているが，実際に怒っている場合も怒っていない場合もありうる。

Schultze-Berndt & Himmelmann（2004）は，描写述語と副詞を形式的に区別する言語においてより参与者指向な意味は描写述語で，より事象指向な意味は副詞で表されることを指摘している。参与者指向な意味は，（41）のような参与者の状態や，参与者の量などである。事象指向な意味は，（42）のような行為の様態や，行為の行われる場所や時間などである。（41）と（42）のように，英語では意味的違いに対応して異なる形式が使われている。（41）では参与者指向な意味が描写述語で表され，（42）では事象指向な意味が *-ly* がついた副詞で表される。

4.2. トルコ語における描写述語と副詞

トルコ語の描写述語と副詞は語順の制限と一次述語になれるかどうかで形式的に区別することができる（Gürkan 2021: 13）。トルコ語の描写述語は必ず動詞の直前に現れる一方で，副詞には語順の制限がない。さらに，描写述語は一次述語として現れることができる一方で，副詞は一次述語になれない。これらの特徴を前もって表 3 にまとめた。以下では，具体的なデータと共にこれらの特徴を観察する。

表 3　トルコ語における描写述語と副詞の統語的特徴

	語順の制限	一次述語になれるか
描写述語	動詞の直前（(43)（44）（45））	なれる（(48)（49））
副詞	制限なし（(46)（47））	なれない（(50)（51））

一つ目の統語的特徴の違いとして，トルコ語の描写述語と副詞は語順の制限によって区別することができる。具体的には，トルコ語の描写述語は必ず動詞の直前に現れる一方で，トルコ語の副詞には語順の制限がない。(43) は描写述語が動詞の直前に現れている例で，(44) と (45) は描写述語が動詞の直前以外の位置に現れている例である。

(43) *Kadın otel-den kızgın ayrıl-dı.* (Gürkan 2021: 13)
woman hotel-ABL angry leave-PST
「女性は怒ってホテルを出た。」

(44) **Kadın kızgın otelden ayrıldı.* (Gürkan 2021: 13)

(45) **Otelden kızgın kadın ayrıldı.* (Gürkan 2021: 13)

kızgın「怒って」が描写述語であり，(43) では動詞の直前に現れ，文法的である。一方で，(44) と (45) では動詞の直前以外に現れ，非文法的である。

一方で，(46) と (47) からわかるように副詞は動詞の直前にも目的語の直前にも現れる。

(46) *Yavaş kitap oku-yor.*
slow book read-PROG
「ゆっくり本を読む。」

(47) *Kitab-ı yavaş oku-yor.*
book-ACC slow read-PROG
「本をゆっくり読む。」

(46) と (47) から，副詞 *yavaş*「ゆっくり」が動詞の直前にも目的語の直前にも現れることができることがわかる。

二つ目の統語的特徴の違いとして，描写述語は一次述語として現れることができる一方で，副詞は一次述語として機能することができない。(48) は描写述語文の例文であり，(49) ではその描写述語が一次述語になっている。

（48）*Ben çay-ı soğuk iç-ti-m.*
1SG tea-ACC cold drink-PST-1SG
「私はお茶を冷たく飲んだ。」
（49）*Çay soğuk.*
tea cold
「お茶は冷たい。」

（48）で描写述語である *soğuk*「冷たい」は（49）で一次述語として現れている。

一方で，副詞は一次述語として機能することができない。（50）は副詞の例文であり，（51）ではその副詞が一次述語になることができていない。

（50）*Kitab-ı yavaş oku-yor.*
book-ACC slow read-PROG
「本をゆっくり読む。」
（51）**Kitap yavaş.*
book slow
意図：「本はゆっくりだ。」

（50）で副詞である *yavaş*「ゆっくり」は（51）では一次述語として現れることができない。

まとめると，トルコ語では二種類の統語的特徴によって描写述語と副詞を区別することができる。描写述語は必ず動詞の直前に現れ，一次述語になれるという特徴がある。一方で，副詞には語順の制限がなく，一次述語として現れることができない。

4.3. 描写述語としての参与者指向 PNR 構文と副詞としての事象指向 PNR 構文

第 4.2 節で示したトルコ語では描写述語と副詞の統語的な区別を踏まえ，本節では参与者指向 PNR 構文と事象指向 PNR 構文を描写述語と副詞の区別の中で分析する。具体的には，参与者指向 PNR 構文は描写述語，事象指向 PNR 構文は副詞として捉えることができる。根拠となるテストの結果と分析をあらかじめ表 4 に示す。

表 4　参与者指向 PNR 構文と事象指向 PNR 構文の統語的相違点と分析

PNR 構文	語順の制限	一次述語になれるか	分析
参与者指向	動詞の直前（(52)（53)）	なれる（(54)（55)（56)（57)）	描写述語
事象指向	制限なし（(59)（60)（61)（62)）	なれない（(63)（64)（65)（66)）	副詞

まず，参与者指向 PNR 構文は描写述語であることを示す。この分析は次の二種類の根拠に基づく。第一に，参与者指向 PNR 構文の場合，重複は必ず動詞の直前に現れる。

(52) *Ben kitap-lar-ı kutu~kutu ver-di-m.*
1SG book-PL-ACC box~box give-PST-1SG
「私は本を箱ごとに何度も与えた。」

(53) ?*Ben kutu~kutu kitap-lar-ı ver-di-m.*
1SG box~box book-PL-ACC give-PST-1SG
意図：「私は本を箱ごとに何度も与えた。」

(52) では重複 *kutu~kutu*「箱ごとに」は動詞の直前に現れ，文法的である。一方で，(53) では *kutu~kutu* は目的語の直前に現れ，容認度が下がる。このように，参与者指向 PNR 構文の重複は動詞の直前に現れる。

第二に，参与者指向 PNR 構文の重複形式は一次述語になれる。(54) の例では目的語名詞句と重複形式が主述関係を結んでいる。(55) では重複が一次述語として現れている。

(54) *Ben kitap-lar-ı kutu~kutu ver-di-m.* = (52)
1SG book-PL-ACC box~box give-PST-1SG
「私は本を箱ごとに何度も与えた。」

(55) *Kitap-lar kutu~kutu.*
book-PL box~box
「本は箱ごとの状態である。」

(54) では目的語名詞句 *kitapları*「本を」と重複 *kutu~kutu*「箱ごとに」は主述関係にある。

重複形式は目的語とだけでなく，主語とも主述関係を結ぶことができる。(56) の例では主語名詞句と重複が主述関係を結んでいる。(57) では重複が一次述語として現れている。

(56) *Yemek-ler tabak~tabak gel-iyor.* (kastamonupostasi.com)= (22)
food-PL plate~plate come-PROG
「食べ物が皿ごとに来る。」

(57) *Yemek-ler tabak~tabak.*
food-PL plate~plate
「食べ物が皿ごとにある。」

(56) では主語名詞句 *yemekler*「食べ物」と重複 *tabak~tabak*「皿ごとに」は主述関係にある。(57) では名詞句 *yemekler*「食べ物」が主語，重複 *tabak~tabak*「皿ごとに」が一次述語として現れている。

参与者指向 PNR 構文の重複形式が一次述語になれることについて，複数人に対して調査を行ったところ，一次述語としてつかえるという話者と使えないという話者がいた。そのため，作例だけではなく，(58) にコーパスデータにおける例を提

示する。

(58) *Beyaz leblebi kase~kase idi.* (tumblr.com)
white chickpea bowl~bowl PST.COP
「白レンズマメはボールごとにあった。」

(58) は名詞句 *beyaz leblebi*「白レンズマメ」が主語, 重複 *kase~kase*「ボールごとに」が一次述語として現れている。描写述語は動詞直前に現れる必要があることと，一次述語になれること（第 4.2 節）から，参与者指向 PNR 構文は描写述語であると分析する。

一方で，事象指向 PNR 構文は副詞であると分析できる。この分析は次の二つの根拠に基づく。第一に，事象指向 PNR 構文の場合，重複は動詞直前以外の位置にも現れることができる。(59) と (60) は時間名詞，(61) と (62) は場所名詞の事象指向 PNR 構文である。

(59) *Ay~ay maaş al-ıyor-um.*
month~month salary take-PROG-1SG
「月ごとに給料をもらっている。」

(60) *Maaş-ı ay~ay al-ıyor-um.*
salary-ACC month~month take-PROG-1SG
「給料を月ごとにもらっている。」

(61) *Kitab-ı kütüphane~kütüphane ara-dı-m.*
book-ACC library~library search.for-PST-1SG
「私は本を図書館という図書館で探した。」

(62) *Kütüphane~kütüphane kitap ara-dı-m.*
library~library book search.for-PST-1SG
「私は図書館という図書館で本を探した。」

(59) と (60) では時間名詞の重複 *ay~ay*「月ごとに」がそれぞれ，動詞の直前と目的語の直前に現れている。(61) と (62) では場所名詞の重複 *kütüphane~kütüphane*「図書館という図書館」がそれぞれ，動詞の直前と目的語の直前に現れている。このように，事象指向 PNR 構文の重複は参与者指向 PNR 構文の重複のような語順の制限はない。

第二に, 事象指向 PNR 構文は一次述語として現れることができない。(63) と (64) は時間名詞，(65) と (66) は場所名詞の事象指向 PNR 構文である。

(63) *Kitab-ı gün~gün oku-yor.*
book-ACC day~day read-PROG
「本を毎日読む。」

（64）*Kitap　gün~gün.
　book　day~day
　意図：「本は毎日である。」
（65）*Kitab-ı　kütüphane~kütüphane　ara-dı-m.*
　book-ACC　library~library　search.for-PST-1SG
　「私は本を図書館という図書館で探した。」
（66）*Kitap　kütüphane~kütüphane.*
　book　library~library
　意図：「本は図書館という図書館にある。」

（63）と（65）の重複 *gün~gün*「日ごとに」と *kütüphane~kütüphane*「図書館という図書館」はそれぞれ（64）と（66）で一次述語になれていない。トルコ語の副詞は動詞直前に現れる必要がないことと，一次述語になれないこと（第 4.2 節）から，事象指向 PNR 構文は副詞であると分析する。

このように，参与者指向 PNR 構文と事象指向 PNR 構文は共通して動詞の付加詞であるものの，異なる統語的構造を持つ。参与者指向 PNR 構文の重複形式は描写述語，事象指向 PNR 構文の重複形式は副詞である。

4.4. PNR 構文の分析のまとめとその評価

ここまでの PNR 構文の記述・分析は表 5 のようにまとめることができる。

表 5　PNR 構文の特徴

<table>
<tr><th></th><th colspan="2">形式</th><th>意味</th><th>指向</th><th>分配</th></tr>
<tr><td>参与者指向 PNR 構文</td><td rowspan="3">動詞の付加詞</td><td>描写述語</td><td rowspan="3">複数行為性</td><td>参与者</td><td>参与者</td></tr>
<tr><td rowspan="2">事象指向 PNR 構文</td><td rowspan="2">副詞</td><td rowspan="2">事象</td><td>場所</td></tr>
<tr><td>時間</td></tr>
</table>

PNR 構文は複数行為性の機能を持つ動詞の付加詞である。PNR 構文には事象に関わる参与者ごとに事象を分配する参与者指向 PNR 構文と場所や時間ごとに事象を分配する事象指向 PNR 構文がある。この意味的違いがそれぞれ構造的な違いに反映されている。つまり，参与者指向な意味は描写述語で，事象指向な意味は副詞で表される。

参与者指向 PNR 構文が描写述語であり，事象指向 PNR 構文が副詞であることを踏まえれば，前者の PNR 構文では節内の名詞句が複数形をとる必要がある一方で，後者の PNR 構文では節内の名詞句の数標識の制限がなく，単数形でも複数形でも可能であるという第 1 節での観察が理解できる。参与者指向 PNR 構文では名詞句と重複は主述関係にあり，述語である重複は名詞句が表す参与者が複数いることを意味しているので，名詞句は必ず複数形になる。（67）に参与者指向 PNR 構

文の例を示す。

（67）*Kitap-lar-ı　kutu~kutu　ver-di-m.*　(= (4))
book-PL-ACC　box~box　give-PST-1SG
「私は本を箱ごとに（何度も）与えた。」

（67）では名詞句 *kitap-lar*「本」と重複 *kutu~kutu*「箱ごとに」が主述関係にあり，述語である重複 *kutu~kutu*「箱ごとに」に応じて名詞句は複数形をとる。柴田（1954: 175）によると，トルコ語の複数接辞は「一つにまとまらない（ばらばらの）対象」を表す。このことと，参与者指向 PNR 構文で複数接辞がついた名詞句の指示物が単位ごとにばらばらに行為を被ることと合致する。例えば，（67）では本が一つにまとまっているわけではなく，箱ごとにばらばらになっており，それぞれが行為を被る。参与者指向 PNR 構文が描写述語という構造であることと節内の名詞句が複数形になることには密接な関係がある。

一方で，（68）では PNR 構文は行為自体のみの複数性を表しているので，参与者は複数である必要がなく，参与者を表す名詞句も複数形を取らない。（68）に事象指向 PNR 構文の例を提示する。

（68）*Kitab-ı　kütüphane~kütüphane　ara-dı-m.*　(= (5))
book-ACC　library~library　search.for-PST-1SG
「私は（特定の）本をあらゆる図書館で探した。」

本論文の以上の記述分析は描写述語と副詞における意味と形式の対応が複数行為性にも適用できることを意味する。Schultze-Berndt & Himmelmann（2004）は参与者の状態や量などの参与者指向な意味は描写述語で，行為の様態や場所，時間などの事象指向な意味は副詞で表されることを指摘したが，本論文では参与者指向の複数行為性が描写述語で，事象指向の複数行為性が副詞で表されることを示した。Schultze-Berndt & Himmelmann（2004）の提案する参与者指向・事象指向の区別は複数行為性にも適用することができるのである。

5. トルコ語の複数行為性構文における PNR 構文の位置づけ

ここまで，トルコ語の PNR 構文を複数行為性の観点から形式と意味について記述してきた。第 2 節では PNR 構文を他のトルコ語の複数行為性の構文と比較する必要性を論じ，本論文では複数行為性の定義を動詞の形態論的形式に限らず動詞の形態論によらない文法形式も含めることを述べた。その結果，PNR 構文の複数行為性の意味の記述が可能となり（第 3 節），この意味の違いが描写述語と副詞の違いに対応することを指摘することができた（第 4 節）。PNR 構文の重複形式は動詞の付加詞であるものの，PNR 構文は動詞の形態論的形式と同様に複数行為性の機能を持つ。

本節では，これまでの記述・分析のまとめとして，PNR 構文をトルコ語の動詞

の形態論的な複数行為性標示と比較し，PNR 構文をトルコ語の複数行為性構文の全体の中に位置づける。そのために，まず動詞の形態論的な複数行為性標示を再検討する。動詞の形態論的な複数行為性標示には，第 1 節で述べたように，V-ış 構文，V-ıştır 構文，動詞重複構文がある。それぞれ，(69)（70）（71）を参照してほしい。

(69)　*İnsan-lar　kaç-ış-tı.*
human-PL　run.away-IŞ-PST
「人々が逃げ回った。」

(70)　*Çarp-ıştır-dı.*
hit-IŞTIR-PST
「（少しずつ何度も）ぶつかった。」

(71)　*Koş-tu　da　koş-tu.*
run-PST　also　run-PST
「彼は走りに走った。」

（69）では，接辞 *-Iş* がついた動詞 *kaçış* によって逃げまわるという行為が参与者である複数の人間によって行われていることが表されている。つまり参与者的分配機能を持つ。（70）では，接辞 *-ıştır* がついた動詞 *çarpıştır* によって複数の時間にわたってぶつかるという行為が表されている。（71）で動詞 *koştu*「走った」の重複形式によって走るという行為が複数の時間にわたって行われていることが表されている。つまり時間的分配機能を持つ。

重要なことに，これらの動詞の形態論的な複数行為性標示が表現する複数行為性のタイプは限定的である。まず，一つの形態的標示は一つの複数行為性のタイプしか表さない。（69）では参与者的分配のみ，（70）と（71）では時間的分配のみの機能を持つ。多機能的ではない。次に，これらの形式のうち，場所的分配の機能を持つものはない。例えば，（72）の動詞重複構文でこのことを確認する。

(72)　*Kütüphane-de　kitap　ara-dı　da　ara-dı.*
library-LOC　book　search-PST　also　search-PST
ok「図書館で本を探しに探した。」
*「いろんな図書館で本を探した。」

（72）では動詞の重複によって探すという行為が複数の時間にわたって行われていることが表されている。しかし，様々な図書館にわたって探すという行為が行われているという場所的分配を表しているわけではない。

一方で，PNR 構文は，Mattiola（2019）が複数行為性の中心的機能とする時間的分配，場所的分配，参与者的分配の全ての複数行為性を表すことができる（第3.1節）。それぞれの機能を表す PNR 構文の例を示す。

(73) *...tatlı-lar-ı　kaşık~kaşık　ye-r-di.*　(dergi.havuz.de)
desert-PL-ACC　spoon~spoon　eat-AOR-PST
「デザートをスプーンごとに食べたものだ。」

(74) *Cüzdan-ın　çal-ın-ma　an-ı　güvenlik*
wallet-GEN　steel-PASS-VN　moment-3SG.POSS　safty
kamera-lar-ı-na　saniye~saniye　yansı-dı.　(zirvegazetesi.com)
camera-PL-3SG.POSS-DAT　second~second　reflect-PST
「財布が盗まれた瞬間は監視カメラに秒ごとに写された。」

(75) *Türk　bölge-ler-in-i　köy~köy　gez-di-m.*　(bilgi.didikle.com)
Turkish　region-PL-3SG.POSS-ACC　village~village　tour-PST-1SG
「トルコ人地域を村ごとに周った。」

(73) では食べるという行為が参与者である複数のスプーンにわたって行われていることが表されている。これは参与者的分配の機能である。(74) は盗まれた瞬間が秒ごとに複数回写されたことを表している。これは時間的分配の機能である。(75) はまわる行為が複数の村にわたって行われていることを表す。これは場所的分配の機能である。つまり，PNR 構文は多機能的である。

トルコ語の動詞の形態論的な複数行為性標示と PNR 構文の機能は表 6 のようにまとめることができる。

表 6　トルコ語の複数行為性構文と PNR 構文

構文	V-IŞ 構文	動詞形態論 V-IŞTIR 構文	動詞重複構文	動詞形態論の外 PNR 構文
例文	(69)	(70)	(71)	(73) (74) (75)
参与者的分配	OK	*	*	OK
場所的分配	*	*	*	OK
時間的分配	*	OK	OK	OK

表 6 からわかるように，トルコ語の複数行為性の構文のうち動詞形態論による構文には参与者的分配や時間的分配の機能を表すものがあり，かつ一つの構文につき一つの機能しかない。一方で，PNR 構文は参与者的分配や時間的分配の機能だけでなく場所的分配を表す形式もあり，複数の機能を持つ。このように，トルコ語における動詞の形態論的な複数行為性標示と比べ，PNR 構文は包括的かつ多機能的な構文であると位置づけることができる。PNR 構文を排除してトルコ語の複数行為性を論じることはできない。

6. 結論

本論文は参与者指向 PNR 構文と事象指向 PNR 構文という二種類の PNR 構文について分析した。両者は共通して，動詞の付加詞を成す名詞重複の構文で，複数行為性の機能を持つ。参与者指向 PNR 構文は行為の参与者に行為を分配する機能を

持ち，事象指向 PNR 構文は時間と場所に行為を分配する機能を持つ。さらに，二種類の PNR 構文は共通して動詞の付加詞であるものの，参与者指向 PNR 構文は描写述語，事象指向 PNR 構文は副詞である。これらの記述・分析に基づき，本論文はトルコ語の複数行為性の構文の中に PNR 構文を位置づけた。すなわち，トルコ語の動詞形態論による複数行為性標示は限定的で単一機能しか持たない一方で，PNR 構文は包括的かつ多機能的な複数行為性構文である。

略号一覧

ABL	ablative	PASS	passive
ACC	accusative	PL	plural
AOR	aorist	POSS	possessive
COM	comitative	PROG	progressive
COND	conditional	PST	past
COP	copula	RED	reduplicative
CVB	converb	REL	relative
DAT	dative	SBJ	subject
DET	determiner	SG	singular
DST	distributive numeral	TR	transitive
DU	dual	VN	verbal noun
FAR.PST	far past	1	first person
GEN	genitive	2	second person
IPFV	imperfective	3	third person
ITER	iterative	IŞ	接辞 *-Iş*
LOC	locative	IŞTIR	接辞 *-IştIr*
NEG	negative		

参照文献

Aikhenvald, Alexandra Y. (2006) Classifiers and noun classes: Semantics. In: Keith Brown (ed.) *Encyclopedia of language & linguistics*, 463–471. Oxford: Elsevier.

Armoskaite, Solveiga and Ethan Kutlu (2015) Turkish m-reduplication: a case of similative number. *Turkic Languages* 18: 271–288.

Bar-el, Leora (2008) Verbal number and aspect in Skwxwú7mesh. *Recherches Linguistiques de Vincennes* 37: 31–54.

Göksel, Aslı and Celia Kerslake (2005) *Turkish: A comprehensive grammar*. London & New York: Routledge.

Gürkan, Duygu Özge (2021) Depictive secondary predicates in Turkish. *Onomázein: Revista de Linguística, Filología y Traducción* 51: 1–16.

Haspelmath, Martin (2010) Comparative concepts and descriptive categories in crosslinguistic studies. *Language* 86(3): 663–687.

Jones, Wendell and Paula Jones (1991) *Barasano syntax: Studies in the languages of Colombia 2* (SIL International Publications in Linguistics 101). Dallas, TX: Summer Institute of Linguistics and the University of Texas at Arlington.

Kilgarriff, Adam, Vít Baisa, Jan Bušta, Miloš Jakubíček, Vojtěch Kovář, Jan Michelfeit, Pavel Rychlý and Vít Suchomel (2014) The Sketch Engine: Ten years on. *Lexicography* 1: 7–36.
Kimball, Geoffrey D. (1991) *Koasati grammar*. Lincoln, NE: University of Nebraska Press.
Kornfilt, Jaklin (1997) *Turkish*. London & New York: Routledge.
Lewis, Geoffrey (2000) *Turkish grammar*. Second edition. Oxford: Oxford University Press.
Mattiola, Simone (2019) *Typology of pluractional constructions in the languages of the world*. Amsterdam: John Benjamins Publishing Company.
Mattiola, Simone (2020) Pluractionality: A cross-linguistic perspective. *Language and Linguistics Compass* 14(3): e12366.
Newman, Paul (1980) *The classification of Chadic within Afroasiatic*. Leiden: Universitaire Pers.
Schultze-Berndt, Eva and Nikolaus P. Himmelmann (2004) Depictive secondary predicates in crosslinguistic perspective. *Linguistic Typology* 8(1): 59–131.
柴田武（1954）「トルコ語の人稱」『言語研究』26: 173–178.
Suzuki, Yui (2023) Adnominal reduplicative quantifier in Turkish. *Tokyo University Linguistic Papers* 45: 255–271.
鈴木唯（2025）「トルコ語における複数行為性」『東京大学言語学論集』46: 283–310.
van der Auwera, Johan and Andrej L. Malchukov (2005) A semantic map for depictive adjectivals. In: Nikolaus P. Himmelmann & Eva Schultze-Berndt (eds.) *Secondary predication and adverbial modification: The typology of depictives*, 393–423. Oxford: Oxford University Press.

執筆者連絡先：
東京外国語大学
日本学術振興会特別研究員 PD
e-mail: suzuki.yui.s.y@gmail.com

［受領日　2023 年 7 月 22 日
最終原稿受領日　2024 年 10 月 7 日］

Abstract

Nominal Reduplication and Pluractionality in Turkish

Yui Suzuki
Tokyo University of Foreign Studies JSPS Research Fellowship for Young Scientists PD

This paper investigates the pluractional nominal reduplicative (PNR) construction in Turkish, where nominal reduplication is employed for expressing a plurality of events involving a repetition in participants, time, or space. This study characterizes the construction in question as a pluractional construction and identifies two types of PNR constructions: participant-oriented and event-oriented. In terms of function, the participant-oriented PNR construction is employed to distribute events across different participants, while the event-oriented PNR construction is used to distribute events over time and space. From a morphosyntactic perspective, the former can be analyzed as a depictive construction, whereas the latter can be analyzed as an adverbial construction. Furthermore, this study compares the PNR construction with other pluractional constructions in Turkish, highlighting its multifunctional nature in contrast to the specialized pluractionality expressed by other constructions.